

## 安全データシート

作成：2010年7月2日

改訂：2022年5月20日

## 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	アサヒボンド防錆プライマー 硬化剤
会社名称	アサヒボンド工業株式会社
住所	東京都板橋区大谷口北町3-7
担当部門	営業部
電話番号	(03) 3972-4929
FAX番号	(03) 3972-4583
緊急連絡電話番号	(03) 3972-4929
推奨用途	鉄部のプライマーに限る。
整理番号	10042

## 2. 危険有害性の要約

## 化学品のGHS分類

物理化学的危険性	引火性液体	区分に該当しない
健康に対する有害性	急性毒性（経口）	分類できない
	急性毒性（経皮）	分類できない
	急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
	急性毒性（吸入：粉じん/ミスト）	分類できない
	皮膚腐食性/刺激性	区分2
	眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	区分1
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	区分1
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	区分2
	生殖毒性	区分2
	特定標的臓器(単回ばく露)	区分1
	特定標的臓器(反復ばく露)	分類できない
誤えん有害性	分類できない	
環境に対する有害性	水生環境有害 短期（急性）	区分2
	水生環境有害 長期（慢性）	区分2

上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しないか分類できない。

## GHSラベル要素



絵表示

注意喚起

危険

## 危険有害性情報

- (H315) 皮膚刺激
- (H318) 重篤な眼の損傷
- (H317) アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
- (H351) 発がんのおそれの疑い
- (H361) 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
- (H370) 臓器の障害
- (H401) 水生生物に毒性
- (H411) 長期継続的影響によって水生生物に毒性

## 注意書き

## 【安全対策】

- (P264) 取扱い後は手をよく洗うこと。
- (P280) 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
- (P261) 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
- (P272) 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
- (P201) 使用前に取扱説明書を入手すること。
- (P202) 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- (P260) 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
- (P270) この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
- (P273) 環境への放出を避けること。

## 【応急措置】

- (P302+P352) 皮膚に付着した場合：多量の水と石鹼で洗うこと。
- (P332+P313) 皮膚刺激が生じた場合：医師の診察/手当てを受けること。
- (P362+P364) 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- (P305+P351+P338) 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合には外すこと。その後も洗浄を続けること。
- (P310) 直ちに医師に連絡すること。
- (P333+P313) 皮膚刺激又は発しんが生じた場合：医師の診察/手当てを受けること。
- (P308+P313) ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当てを受けること。
- (P308+P311) ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
- (P391) 漏出物を回収すること。

## 【保管

- (P405) 施錠して保管すること。

## 【廃棄

- (P501) 内容物や容器は国・地方の許可を受けた産業廃棄物業者に委託し廃棄すること。

## 3. 組成、成分情報

## 化学物質・混合物の区別

混合物

## 化学名又は一般名

変性ポリアミドアミン

## 危険有害成分

濃度(重量%)

CAS 番号

官報公示整理番号

変性ポリアミドアミン

非開示

なし

非開示

メタ-キシリレンジアミン

0.5 未満

1477-55-0

(3)-308

トリエチレンテトラミン

0.2 未満

112-24-3

(7)-5, (2)-163

亜リン酸カルシウム	5 以下	21056-98-4	(1)-1230
酸化亜鉛	5 以下	1314-13-2	(1)-561
酸化チタン	5～10	13463-67-7	(1)-558
炭酸カルシウム	45～50	471-34-1	(1)-122
水	20～25	7732-18-5	

#### 4. 応急措置

吸入した場合	被災者を空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。医師の診断を受けること。
皮膚に付着した場合	直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を流水、シャワーで洗うこと。汚染した衣類を再使用する場合には洗濯すること。多量の水と石鹼で洗うこと。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断を受けること。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当を受けること。
飲み込んだ場合	安静にして直ちに医師の処置を受けること。嘔吐物は飲み込ませないこと。 医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。

#### 応急措置をする者の保護に必要な注意事項

救助者は保護手袋や保護眼鏡などの保護具を着用し、衣類や手につかないように注意を払うこと。

#### 5. 火災時の措置

適切な消火剤	不燃性である。 例えば周囲が火災の時は危険でなければ容器を火災区域から移動する。 物質を拡散させてはいけない。
--------	---

#### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項	直ちに全ての方向に適切な距離を漏洩区域とし隔離する。関係者以外は近づけない。
保護具及び緊急時措置	作業者は適切な保護衣を着用し、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。
環境に対する注意事項	河川等に排出され、環境中へ影響を起ささないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	乾燥した土、砂或いは不燃性物質で吸収し、或いは覆って容器に移す。 危険でなければ漏れを止める。
二次災害の防止策	排水溝、下水溝、地下室、或いは狭い場所への流入を防ぐ。

#### 7. 取り扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用すること。
安全取扱注意事項	取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをすること。 作業手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面、保護マスク等を着用すること。 ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

	環境への放出を避けること。
接触回避	「10. 安定性及び反応性」を参照。
衛生対策	取扱い後は、顔等をよく洗い、うがい手洗いをすること。汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
保管	
安全な保管条件	容器を密閉し 30℃以下の風通しのよいところで施錠して保管すること。
安全な容器包装材料	ポリ容器に保管する。
8. ばく露防止及び保護措置	
許容濃度	
日本産業衛生学会（2012年版）	メタ-キシリレンジアミン 設定されていない。 酸化チタン TWA 4mg/m <sup>3</sup> (総粉じん) 炭酸カルシウム 設定されていない。 酸化亜鉛 第2種粉じん；総粉じん 4 mg/m <sup>3</sup> 、1 mg/m <sup>3</sup> (吸入性粉じん)
ACGIH（2009年版）	メタ-キシリレンジアミン TLV-STEL 0.1mg/m <sup>3</sup> 皮膚急性あり。 酸化チタン TWA 10mg/m <sup>3</sup> 炭酸カルシウム 10mg/m <sup>3</sup> (総粉じん) 酸化亜鉛 TLV-TWA 2mg/m <sup>3</sup> 、TLV-STEL 10mg/m <sup>3</sup>
設備対策	気中濃度を推奨された管理濃度・許容濃度以下に保つために、局所排気装置を設置する。 取り扱い場所の近くに、眼の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置すること。
保護具	
呼吸用保護具	防毒マスク（有機ガス用）
手の保護具	耐水性（不浸透性）の保護手袋
眼、顔面の保護具	保護眼鏡又は安全ゴーグル
皮膚及び身体の保護具	長袖保護服、長靴、前掛け
特別な注意事項	取扱い後は手や顔等をよく洗い、うがいすること。この製品を使用前に、飲食又は喫煙をしないこと。汚染した衣類を再使用する場合は洗濯すること。

## 9. 物理的及び化学的性質

物理状態、色	深灰色ペースト状物
臭い	アミン臭
融点/凝固点	データなし
沸点又は初留点及び沸騰範囲	データなし
可燃性	可燃性である。
引火点	検出されない
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	10～11
溶解性	水に可溶。
n-オクタノール/水分配係数	データなし
蒸気圧	データなし

密度及び/又は相対密度	比重 1.5～1.7(23/4℃)
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

## 10. 安定性及び反応性

反応性	炭酸ガス、酸性物質、過酸化物、エポキシ化合物、イソシアネート化合物等と反応する。
化学的安定性	密閉状態で安定性であるが、長時間の空気との接触では変質する。
危険有害性反応可能性	炭酸ガス、酸性物質、過酸化物、エポキシ化合物及びイソシアネート化合物と反応する。
避けるべき条件	過度の加熱。空気との接触。
混合危険物質	強酸化剤、酸性物質、エポキシ化合物、イソシアネート化合物、過酸化物など。
危険有害な分解性生物	アミン類、アンモニア、燃焼等による一酸化炭素、窒素酸化物等。

## 11. 有害性情報

急性毒性(経口)	分類できない
	区分4                   メタ-キシリレンジアミン                   ラット LD50 660-980mg/kg
	区分に外当しない   トリエチレンテトラミン                   ラット LD50 2,500-4,340mg/kg
	区分に外当しない   炭酸カルシウム                               ラット LD50 6,450mg/kg
	区分に外当しない   酸化亜鉛                                       ラット LD50 >15,000mg/kg bw[EU-RAR(2004)]
急性毒性(経皮)	分類できない
	区分4                   メタ-キシリレンジアミン                   ウサギ LD50 2000mg/kg
	区分3                   トリエチレンテトラミン                   ウサギ LD50 550-805mg/kg
	分類できない       炭酸カルシウム
	区分に外当しない   酸化亜鉛                                       ウサギ LD50 >5,000mg/kg
急性毒性(吸入、ミスト)	分類できない
	区分に外当しない   メタ-キシリレンジアミン                   ラット LC50 4時間 : 0.8mg/L
	分類できない(蒸気、粉塵・ミスト) トリエチレンテトラミン
	分類できない       炭酸カルシウム
	区分に外当しない   酸化亜鉛
皮膚腐食性/刺激性	皮膚刺激 (区分2)
	区分1   メタ-キシリレンジアミン 動物への影響 ; ラットの皮膚に原液の適用で3分後に皮下出血、5分後に壊死が認められ60分後に6匹全例に皮膚の紅斑、浮腫、出血、壊死が認められ腐食性ありの評価。
	区分に該当しない   炭酸カルシウム
	区分に外当しない   酸化亜鉛
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	重篤な眼の損傷 (区分1)
	区分1   メタ-キシリレンジアミン   動物への影響 ; 本物質は皮膚腐食性物として分類されている。
	区分2   炭酸カルシウム   痛みを伴う根拠につきメーカー報告でこの区分になっている。
	区分に外当しない   酸化亜鉛
呼吸器感作性又は皮膚感作性	
呼吸器感作性 :	分類できない

皮膚感作性：	アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ(区分1) 区分1 メタ-キシリレンジアミン 皮膚感作性第1群(日本産業衛生学会) 分類できない 炭酸カルシウム 区分に外当しない 酸化亜鉛
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	発がんのおそれの疑い(区分2) 分類できない メタ-キシリレンジアミン 区分2 酸化チタン； IARC でグループ2Bに分類される。
生殖毒性	分類できない
生殖毒性	生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い(区分2) 区分に外当しない メタ-キシリレンジアミン 区分2 酸化亜鉛； ラットで交配21日前から妊娠15日までの混餌投与により2,000ppm以上で死産児の発生[EU-を用いた経口投与と簡易生殖毒性試験において親動物に一般毒性が認められる用量でも殖毒毒性が認められていない。RAR(2004)]報告により区分2。 分類できない 炭酸カルシウム
特定標的臓器毒性(単回ばく露) 臓器の障害(区分1)	区分1(肺)区分2(全身毒性) メタ-キシリレンジアミン；ラットに4時間吸入ばく露急性毒性試験で、0.74mg/L以上の濃度で細気管支炎、肺泡マクロファージの凝集、時に滲出性炎症のような程度の肺の炎症が多く動物で見られた。更にラットに1.74~6.04mg/Lの濃度で1時間吸入ばく露による別の試験では肉眼的異常が主に肺で認められ区分1の根拠としている。 ラット及びマウスの急性経口毒性試験で自発運動の低下、眼瞼下垂が観察され、死亡例では更に運動失調と努力性呼吸が現れた(区分2(全身毒性))。 区分1 酸化亜鉛；ヒトで酸化亜鉛微粉じんの吸入による金属ヒューム熱の発症が報告され、咳、胸痛、悪寒、発熱、呼吸困難、筋肉痛、嘔気などの呼吸器系だけでなく全身に症状が見られる[ACGIH(2003)]。金属ヒューム熱は主に呼吸器系の症状を呈すことから区分1(呼吸器、全身毒性)としている。 分類できない 酸化チタン 分類できない 炭酸カルシウム
特定標的臓器毒性(反復ばく露) 分類できない	
誤えん有害性	分類できない

## 12. 環境影響情報

### 生態毒性

水生環境急性有害性	水生生物に毒性(区分2) 区分3 メタ-キシリレンジアミン      メダカ      96hLC:87.6mg/L 甲殻類(オシジノコ)48hrEC50: 15mg/L 区分に外当しない 炭酸カルシウム 区分1 酸化亜鉛      甲殻類(オシジノコ)48hrEC50:0.098mg/L[NITE 初期リスク評価書]
水生環境慢性有害性	長期継続的影響によって水生生物に毒性(区分2) 区分2 メタ-キシリレンジアミン      甲殻類(オシジノコ) 21dayNOEC:4.7mg/L

区分に外当しない 炭酸カルシウム

区分 1 酸化亜鉛 生物蓄積性は低い(BCF=217)、金属化合物であり水中での挙動が不明であることから区分 1 としている。

#### 残留性・分解性

メタ-キシリレンジアミン BOD による分解度；49%

酸化チタン 分解性はないとされている。

酸化亜鉛 データなし

#### 生態蓄積性

メタ-キシリレンジアミン 低濃縮性

酸化チタン 水溶性が殆ど無いことから生態蓄積性が大きいとは考えにくい。

#### 土壌中の移動性

データなし

#### オゾン層への有害性

分類できない

### 1 3. 廃棄上の注意

#### 残余廃棄物

廃棄は、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県の許可を受けた産業廃棄物処理業者、若しくは地方公共団体が処理を行っている場合はそこに委託し処理する。

処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。

#### 汚染容器および包装

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器は内容物を完全に除去してから処分する。

### 1 4. 輸送上の注意

#### 国連番号

該当しない

#### 品名（国連輸送名）

該当しない

#### 国連分類

該当しない

#### 特別な安全対策

輸送に際しては直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れ、転倒が無いように積み込み、荷崩れ防止を確実にすること。

食品や飼料と一緒に輸送してはならない。

### 1 5. 適用法令

#### 消防法

非危険物

#### 化審法

既存化学物質リストへの収載

#### 労働安全衛生法

名称等を通知すべき有害物 メタ-キシリレンジアミン、酸化チタン、酸化亜鉛

名称等を表示すべき有害物 酸化チタン、酸化亜鉛、メタ-キシリレンジアミンは 1%未満で対象外。

#### 毒物及び劇物取締法

非該当(トリエチレンテトラミンは供給原料中に意図的に含有ではない)

#### 化学物質管理促進法(PRTR法)

トリエチレンテトラミン(濃度 0.2%未満)(2023 年 4 月 1 日以降、第 2 種指定化学物質)

#### 労働基準局長通達(基発第 477 号の 2)

変性ポリアミドアミン

#### 海洋汚染防止法

酸化チタン(Z 類)、水酸化カルシウム(Z 類;濃度 0.15%含有する)

#### 大気汚染防止法

酸化亜鉛(有害大気汚染物質、中缶管)

水道法	酸化亜鉛
下水道法	酸化亜鉛(水質基準物質)
水質汚濁防止法	酸化亜鉛(指定物質)、2mg/L未満(排水基準)
船舶安全法	腐食性物質(危規則第2,3条危険物告示別表第1)、酸化亜鉛
航空法	腐食性物質(施行規則第194条危険物告示別表第1)、酸化亜鉛
輸出貿易管理令	HSコード; 2835.10(亜リン酸カルシウム)

## 16. その他の情報

主な引用文献	1) JIS Z 7253 日本規格協会 2) 原料メーカー発行の安全データシート 3) 日本化学工業協会「緊急時対応措置指針」
--------	--

この情報は、新しい知見に基づき改訂されることがあります。

記載内容は現時点で入手できた資料・情報・データ等に基づいて作成しておりますが、含有量、物理・化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保障をなすものではありません。また、注意事項は通常の実施を対象としたものであり特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全策を実施の上ご利用下さい。